



2021年
1月9日(土)
10:00-15:20

オンライン開催

近畿地方ESD活動支援センター事業

近畿ESDフォーラム2020年度

“レジリエントで持続可能な社会”の 創造を目指して

～地域資源から学び、グローバルな視点を育むアプローチを探る～

2015年に『持続可能な開発のための2030アジェンダ』が採択され、2030年までに達成すべき持続可能な開発目標(SDGs)が掲げられてから5年が経過しました。昨今では、随所でSDGsやその達成に向けた人材育成への関心が高まりを見せています。

新学習指導要領に「持続可能な社会の創り手の育成」が明記され、小学校では2020年度、中学校では2021年度から完全実施となります。また、高等学校においても2022年度から年次進行で実施されます。奇しくもそのような節目を迎える中で、新型コロナウイルス感染拡大により、学校教育はもとより社会全体に多大な混乱と困惑を招く不測の事態が生じました。しかし、コロナ禍においてこそ、国際的なつながりの意識と、持続可能な社会の創り手を育む教育が求められます。また、個人や社会にとって「レジリエンス(しなやかな強さ・回復力)」を高めるチャンスともいえます。

本フォーラムでは、学校関係者、自治体職員、ESDに取り組む拠点等、地域を構成する多様な主体の方々と一緒に、社会に開かれた教育課程の実現に向けた主体間連携のあり方を考えるとともに、参加者にレジリエンスを高めるヒントを得ていただくこと、また、地域でESDを共に推進するネットワークづくりの契機となることを目的として開催いたします。

○日 時: **2021年1月9日(土)10:00～15:20**

○形 態: **オンラインでの実施** (WEB会議システムを使用)

○対 象: **学校関係者、自治体職員、博物館・環境学習施設・社会教育施設等の地域拠点、企業、学生、学校と連携したESDに取り組む団体・組織、その他地域におけるESDに関心のある方**

○定 員(申込先着順): **第1部 100名、第2部 60名** ○参加費: **無料**

○申込方法: **下記 URL リンク先、もしくは、右下の QR コードリンク先の参加申込フォームからお申込みください。**

<https://forms.gle/YUGL8Nc6RCr8CBQ67>

★申込を受け付けた方には、**2021年1月5日(火)**にウェブ会議システムのID・PASSを申込時にご連絡いただいたメールアドレス宛にお送りする予定です。



○申込〆切: **2020年12月25日(金)**

○主 催: **環境省近畿地方環境事務所、近畿地方 ESD 活動支援センター**

参加申し込みQRコード

○後 援(申請中): **滋賀県・滋賀県教育委員会、京都府・京都府教育委員会、大阪府・大阪府教育委員会、兵庫県・兵庫県教育委員会、奈良県・奈良県教育委員会、和歌山県・和歌山県教育委員会**

【プログラム(予定)】 ※時間は前後する場合がございます

◆第1部

- 10:00 開会行事
10:05 基調講演「シティズンシップ教育とESDの目指すもの～コロナ禍で見えてきた教育の価値～」
水山 光春氏(京都橘大学 国際英語学部 教授/日本シティズンシップ教育学会 会長)
10:45 地域資源を教育活動に活かした実践事例の紹介
「学校と地域資源・人材の連携による取組」 和歌山県立向陽高等学校
11:15 ESDの取組や研修につながる実践事例の紹介 <コロナ禍において実践意欲を高める>
①実践事例「ESD・SDGsの取組について」 東海大学附属大阪仰星高等学校・中等部
②研修事例「子どものトキメキとヒラメキを読み取るフォトチャット研修」 奈良教育大学附属幼稚園
③研修事例「参加型で意欲を高める環境学習」 大阪環境カウンセラー協会
④実践事例「日常の授業の中にESDの視点を」 京田辺シュタイナー学校
12:15 休憩(適宜昼食)

◆第2部

- 13:00 ESD-SDGsワークショップ <多様な主体間連携のもとSDGs達成に貢献するESDの授業づくり>
<ミニレクチャー>「授業構想案の立て方について」 大西 浩明氏(奈良教育大学 特任准教授)
<素材提供>花王エコラボミュージアム(地域ESD拠点)
<ESDの授業構想案作成:グループワーク>
14:40 全体共有
15:15 閉会行事

シティズンシップ教育:市民として必要な素養(市民性)を育てる教育のことで、社会や政治の問題に主体的に関わる力や自分なりに社会との関わり方を考えることができる力の育成を目指す教育。

近畿ESDフォーラム2020年度について

近畿地方ESD活動支援センターでは、学校・自治体・地域をつなぎ、学校教員の「ESDの視点で地域資源を活用した学習指導案の作成・実践」を応援する事業を進めています。

2020年度のフォーラムでは、地域資源を教材にして外部人材と連携した教育活動の実践紹介のほか、コロナ禍においても、子どもたちの学ぶ意欲を育む実践や研修の事例を紹介します。校種やセクターを越えてESDの理念を共有し、それぞれの専門性を活かし学び合える場を目指します。近畿ESDセンターにとって、初のオンラインイベントです。この機会に、近畿内外から皆さまのご参加をお待ちしております。



近畿ESDフォーラム2019年度ワークショップの様子

近畿地方ESD活動支援センターでは
学校教員による「地域資源を教材にした授業」
自治体の「地域施策に基づく情報・ネットワーク」
地域の拠点における「ESD実践を補完する専門性」をつなぎ
子どもたちの“主体的・対話的で深い学び”を促します。

環境省と文部科学省の共同提案により、ESD活動に取り組む様々な主体が参画・連携し、情報や経験を共有できる場として、ESD推進ネットワークの構築を目的としたESD活動支援センター(全国センター)が2016年4月に、また8ブロックの地方センター(※)が2017年度に設置されました。近畿地方ESD活動支援センターでは、ESD活動を支援する情報共有発信、現場のニーズを反映したESD活動の支援、ESD活動のネットワークの形成、人材育成等に取り組み、ESDの広がりや深まりを通じて地域の諸課題の解決と教育の質の向上、SDGs達成に向けた意識・行動変革を推進します。

※ 地方ESDセンターは、当面、全国8カ所にある環境省の環境パートナーシップオフィス(地方EPO)を活用することとされており、近畿地方ESD活動支援センターは近畿環境パートナーシップオフィス(きんき環境館)がその運営を担い、きんき環境館と同じ事務所内に開設されています。

